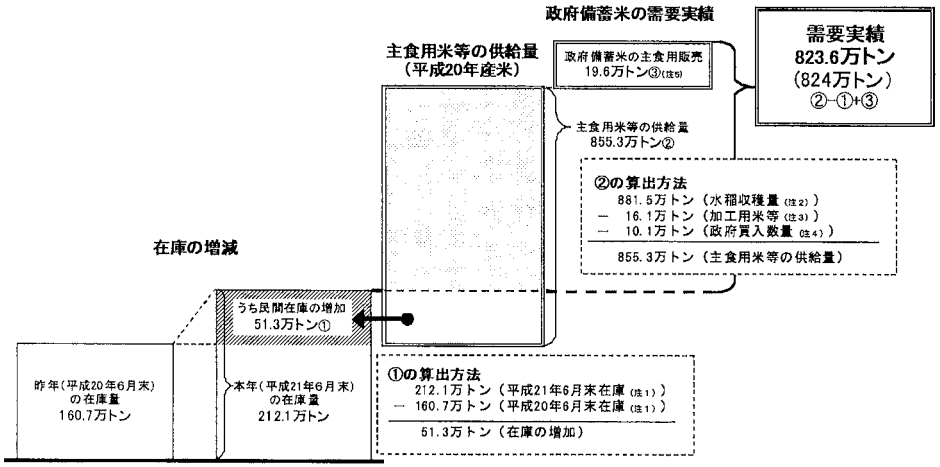
(3)　**平成20／21年の需要実績**

前記方法により算出した平成20／21年（平成20年７月から平成21年６月までの１年間）の需要実績は、図１のとおり824万トンで確定しました。

図１　平成20／21年の需要実績（確定値）



注１：６月末在庫は、玄米の取扱数量が年間500トン以上の届出事業者の在庫に10ａ以上の作付生産者の在庫推計値を加えたものである。

注２：水稲収穫量は、平成20年産米の水稲収穫量(「作物統計」農林水産省大臣官房統計部)である。

注３：加工用米等は、米穀の生産調整実施要領第３において生産調整の取組として取り扱う米穀として定める加工用米及び新規需要米であって主食用米等へ供給されないことが確認された米穀である。

注４：政府買入数量は、平成20年産米の政府買入数量である。

注５：政府備蓄米の主食用販売は、平成20年７月から平成21年６月までの政府備蓄米の主食用への販売数量である。

注６：ラウンドの関係で計が一致しない場合がある。

２　平成21／22年及び平成22／23年の需要見通し

平成21／22年（平成21年７月から平成22年６月までの１年間）及び平成22／23年（平成22年７月から平成23年６月までの１年間）の需要見通しの算出に当たっては、平成16年７月策定の「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」(以下「基本指針」という。)において最近の米の消費量を踏まえて採用した手法により、平成８／９年(平成８年７月から平成９年６月までの１年間)以降から直近の平成20／21年までの需要実績を用いて、トレンド（回帰式)で算出することとし、その算定結果は、図２及び表２のとおりです。

図２　平成８／９年～平成20／21年の需要実績を用いた算出方法

（単位：万トン）

年	x	需要量(y)
8／9	1	943.8
9／10	2	912.9
10／11	3	907.3
11／12	4	885.9
12／13	5	911.5
13／14	6	872.1
14／15	7	894.7
15／16	8	861.6
16／17	9	865.4
17／18	10	851.7
18／19	11	837.5
19／20	12	854.5
20／21	13	823.6
21／22	14	821.1
22／23	15	812.8

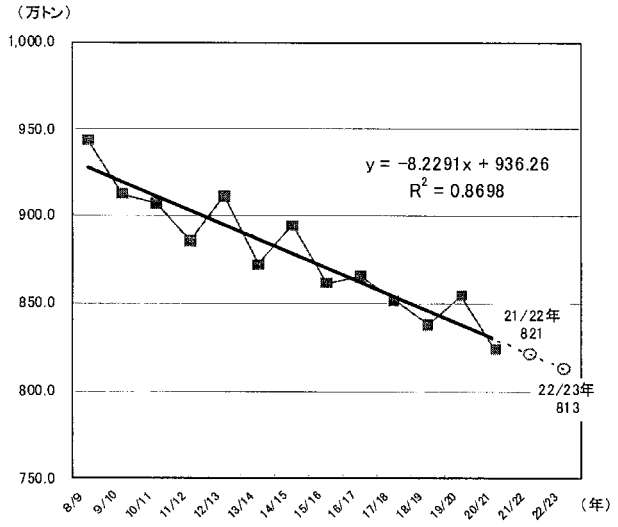


表２　平成21／22年及び平成22／23年の需要見通し

平成21／22年	821万トン
平成22／23年	813万トン

３　平成21／22年の需給見通し

平成21／22年の需給見通しは、表３のとおりです。

(1)　**需要量**

主食用米等の需要量は、２により算出した821万トンです。

(2)　**供給量**

①　平成21年６月末の在庫量（確定値）は、民間流通在庫量及び政府保有在庫量を合わせて298万トンです。

②　主食用米等の生産量は、831万トン（平成21年10月15日現在の平成21年産米水稲の予想収穫量（主食用))です。

③　この結果、平成21／22年の主食用米等の供給量の合計は、1,129万トンとなります。

(3)　**平成22年６月末の在庫量**

平成22年６月末の在庫量は、(1)の需要量及び(2)の供給量から算出して308万トンと見通されます。